教員としての資質の向上に関する指標（1～4段階）

令和5年4月改訂
和歌山県教育委員会

和歌山県が目指す教員育成
(学び続ける教員像の確立)

○若手教員の力量向上のための校内研修の仕組みをつくり、自らも学び続けながら学校全体の教育力を高めようとする教員

○同僚性・協働性を基盤とし、しなやかに創造的な「チーム学校」をつくらうとする教員

* 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力（使命感や責任感、教育的愛情）

* 専門職としての高度な知識・技能

* 総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）

* 校内とは、幼稚園内・認定子ども園内・保育所内を含む。

キャリア段階 資質・能力		1段階	2段階	3段階	4段階
		基礎形成期 (目安：1年目～3年目)	伸長期 (目安：4年目～10年目)	充実期 (目安：11年目～20年目)	貢献期 (目安：21年目以降)
学習指導	授業構成・評価計画 Plan	本時のねらいに応じたためあての設定やま とめを考え、本時の保育、授業計画を立 てようとするとともに、先輩教員の助言 を得ながら単元計画や評価計画を立てる ことができる。	教材や教具、環境構成を工夫しながら、 こどもの実態を踏まえた本時の保育、授 業計画を立てるとともに、付けたい力を 明確にし、見直しをもって単元計画や評 価計画を立てることができる。	カリキュラム・マネジメントに基づき、指導と評価が一体化された保育、授業計画を 立てるとともに、学年や単元間の系統性を意識し、ねらいに沿った単元計画や評価計 画を立てることができる。また、同僚や若手教員が作成した単元計画や評価計画につ いて的確に指導・助言を行うとともに、改善に係る具体的な代替案を示すことができ る。	
	学習指導・評価技術 Do	こどもの発言や机間指導により、こども の反応や理解を確かめながら保育、授業 を行うとともに、こどもの理解度を、設 定した場面・評価規準により評価・支援 することができる。	こどものつぶやきや反応に適切に対応し ながら、保育、授業を行うとともに、学 習状況に応じて、こどもに適切な評価・ 支援を行うことができる。	保育、授業中に、こども一人一人の理解度を発言や机間指導により把握し、こども の理解度に応じた効果的な指導ができる。また、こどもの学習状況に応じて適切に評 価・支援を行い、それらの見取りを、次時以降の保育、学習指導計画の修正に生かす ことができる。	
	授業研究・授業改善 Check Action	日々の保育、授業実践を振り返り、自身 の課題を把握・分析し、改善することが できる。	進んで研究保育、研究授業等を行い、保 育、授業実践の積み上げを図りながら、 多様な指導方法を探究することができる。	自ら学び続けるという意識をもち、自身 の保育、授業実践を積み上げるととも に、同僚や若手教員の授業力向上のた め、適切な助言を行うことができる。	常に指導法研究や自身の資質向上のために 学び続け、若手教員の保育、授業力向上や 所属校の教育目標達成に貢献することがで きる。
生徒指導	個に対する支援	こどもの内面を共感的に理解し、校内組 織等の助言を得ながら、適切な指導・援 助ができる。	こどもの生育歴等の背景を理解し、校内 組織等と連携・協働しながら、適切な指 導・援助ができる。		
	集団に対する支援	こどもは集団の中で育つことを理解し、 校内組織等の助言を得ながら、規律のある 望ましい集団づくりを行うことができる。	こども同士が高め合おうとする集団づく りについて、校内組織等と連携しなが ら、適切な指導・援助ができる。	こどもの自己指導能力の育成を図るための積極的な生徒指導について、様々な関係機 関等と連携・協働して環境を整備することができる。また、管理職の方針のもと、 チーム学校による生徒指導体制においてリーダーシップを発揮することができる。	
	社会的資質・能力 の発達の支援	社会と関わろうとする意欲や態度の育成 について、校内組織等の助言を得なが ら、適切な指導・援助ができる。	社会に貢献しようとする意欲や態度の育 成について、校内組織等と連携しなが ら、適切な指導・援助ができる。		
特別な配慮や 支援を必要と するこどもへ の対応	障害特性に応じた 指導・支援	特別な配慮や支援を必要とするこどもの 発達段階や特性を理解し、関係職員等と の連携により、学習上・生活上の支援の 工夫を行うことができる。	特別な配慮や支援を必要とするこどもへ のよりよい指導・支援を行うことのでき る知識や支援方法を身に付け、組織的に 対応することができる。	特別な配慮や支援を必要とするこどもの 学習上・生活上の支援について、関係機 関等と連携して取り組む校内の体制を推 進することができる。	特別な配慮や支援を必要とするこどもに対 する校内組織を多面的に支え、関係機関等 との連携に基づく組織的な取組を力強く推 進することができる。
	インクルーシブ教育 システム構築の推進	インクルーシブ教育に関わる基本理念について理解し、合理的配慮を踏まえた個に応 じた指導・支援及び学級経営等ができる。		合理的配慮の観点を踏まえた学級経営等 を行うとともに、学校全体で連携した指 導・支援を推進することができる。	合理的配慮の観点を踏まえ、学校全体の教 育環境の改善に向けて助言することができ る。
ICTや情報・ 教育データの 利活用	ICTを活用した教育 の充実と改善	学校におけるICT活用の意義を理解 し、授業や校務等に積極的に取り入れる ことができる。	授業や校務等にICTを効果的に活用す るとともに、こどもの情報活用能力（情 報モラルを含む。）の育成に向けた授業 実践を行うことができる。	こどもの情報活用能力（情報モラルを含 む。）の育成や校務の情報化を、より効 果的に行うための校内研究を推進するこ とができる。	ICTを効果的に活用するための校内組織 の整備や、こどもの情報活用能力の育成を 体系的に行うためのカリキュラム・マネジ メントの実現を図ることができる。
	教育データの利活用 による効果的な指導 の実践	教育データを適切に活用することの意義 と効果を理解し、個別最適で効果的な学 びや支援において適切に活用することが できる。	個々のこどもに応じた学習指導と生徒指 導等の改善のため、教育データを適切に 活用するとともに、効果的な指導等の改善 に向けてデータ活用の提案ができる。	個別最適な学びと協働的な学びの一体的 な充実や、経験の共有と新たな知見の生 成のため、教育データを適切かつ効果 的・具体的に活用することができる。	教育データの利活用に係る校内組織の整備 を図るとともに、授業改善や効果的な指 導・支援を充実させるため、利活用に関す る評価・改善を行うことができる。
教職に 必要な 素養	学級経営・学校運営	学級担任の役割と職務内容及び学校、組 織、校務分掌等について理解し、自分の 役割を遂行することができる。	学校教育目標を理解し、学級経営や校務 分掌等の様々な教育活動における役割を 円滑に進めることができる。	学校教育目標を達成するため、校内組織 等と連携しながら、教育活動を工夫改善 することができる。	学校教育目標を達成するため、学校運営の 持続的な改善を支え、教育活動の効果を高 めるための指導・助言ができる。
	学校組織の一員 としての行動	学校及び教職の意義を理解し、組織の一 員として行動することができる。	学校の社会的役割を理解し、組織の一員 として、自身の意見を効果的に伝えるな ど積極的に参画することができる。	自身や学校の強み・弱みを理解し、学校 組織をつなぐ中核として、課題解決に向 けて行動することができる。	学校組織マネジメントの意義を理解し、自 校の特性を見極め、課題への対応力を高め るよう指導・助言ができる。
	保護者・地域等 との連携・協働	保護者や地域等と積極的に関わり、協力 を得ながら教育活動を行うことができ る。	保護者や地域等との関わりを深め、連 携・協働による教育活動を行うことがで きる。	保護者や地域等とのネットワークを構築 し、連携・協働による教育活動の効果 を高めることができる。	保護者や地域等とのネットワークを有効に 活用して教育活動を行い、かつ同僚への指 導・助言ができる。
	危機管理・危機対応	危機管理の重要性を理解し、学級等の安 全管理ができる。	様々な教育活動での危機について理解 し、課題に応じて環境を整備するこ とができる。	様々な教育活動での危機を予測し、未然 防止や早期発見、早期対応に努めるこ とができる。	関係機関等との連携・協働を通して、危機 管理体制等を見直すなど、組織的な取組を 推進し、かつ同僚への指導・助言が できる。
	自己実現の ための省察	教育活動における自身の取組を振り返 るとともに、指導・助言を得ながら工夫 改善を行うことができる。	教育活動及び校務分掌における自身の取 組を、多角的な視点から振り返るととも に、指導・助言を踏まえ工夫改善に生か すことができる。	教育活動及び校務分掌における自身の取 組を、学校教育目標と関連付けて振り返 るとともに、工夫改善を学校課題の解決 につなげることができる。また、積極 的な指導・助言を通して、同僚の省察を 支援することができる。	